

# 福井市文化会館整備基本構想 概要版

## 1 基本構想策定の背景

### 福井市文化会館開館後の社会経済情勢

福井市文化会館の開館から48年が経過し、社会経済情勢は大きく変化した。こうしたなかで、人々は「物質的な豊かさ」から「心の豊かさ」を求める傾向にある。

また、福井市においては人口減少・少子高齢化が進み、都市との格差が拡大するなかで、地域経済やコミュニティの活性化が大きな課題となっている。

### 劇場・ホールの変遷および動向

近年の劇場・ホールでは、日常的な創造活動の場、誰でも気軽に立ち寄れる場を設け、地域交流を促す施設、専門家の登用や市民協働を通じて、地域の文化芸術水準の底上げと裾野の拡大を目指す事例も見られる。

福井市文化会館においては、「日常的な練習を行う創造の場」や「気軽に立ち寄れる場」の機能が不足している。

### 国の文化政策の動向

- ・「文化芸術振興基本法」(H13):文化芸術振興施策を推進するための基本理念。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」(H24):劇場・音楽堂等の活性化を図り、活力ある地域社会実現に寄与することを目的。
- ・「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針)」(H27):文化芸術は社会的便益を有する公共財で、社会包摂機能を持つ。

### 福井市の文化芸術に関する施策

- ・第七次福井市総合計画 人材育成、環境の充実、活動の支援を通し、市民の誇りとなる文化芸術を振興する。
- ・福井市教育に関する大綱 文化芸術活動を支援し、文化会館を中心に担い手育成と伝統文化や舞台芸術に触れる機会を充実。
- ・福井市文化芸術振興ビジョン 文化芸術活動を通じた人づくり・まちづくりをテーマとし、文化芸術活動の交流や発信を促進。

### 背景からみる福井市文化会館の位置づけ

- 福井市の文化芸術を振興するための拠点
- すべての市民が身近に文化芸術に触れ、創作活動に参加できる環境
- 文化芸術が持つ幅広い分野への波及効果を活かし、地域コミュニティの活性化、地域の発展を支える施設

## 2 福井市文化会館の現状

### 福井市文化会館施設概要

- ・敷地面積 : 2,690㎡
- ・建築面積 : 1,974.21㎡
- ・延床面積 : 5,439.13㎡
- ・ホール : 定員1,162名(車椅子6台)
- ・付帯施設 : 楽屋2室、会議室5室、応接室3室

### 利用状況(平成27年度)

- ・ホール稼働率 : 44.4%
- ・ホール利用人数: 81,172人
- ・主な利用団体 : 学校教育関係/主催事業等/文化団体等
- ・主な用途 : 音楽(クラシック)/舞踊(バレエ、伝統芸能)/演劇/学校行事

### 同規模施設との比較

施設	機能	施設の特徴
福井県立音楽堂 (平成9年9月開館)	固定席(1,456席) 音楽専用ホール	福井県嶺北地域におけるクラシック音楽鑑賞、発表、練習拠点。
フェニックス・プラザ (昭和60年11月開館)	可動客席(2,000席) 多目的ホール	ホール利用の柔軟性(可動式の客席等)や規模を活かした興行、企業や団体の大会・集会・パーティ等、各種イベント・交流拠点。
福井市文化会館 (昭和43年4月開館)	固定席(1,162席) 多目的ホール	市内学校や文化団体の発表会や練習など、アマチュア主体の文化活動拠点。

### アンケート・市民ワークショップ、文化会館関係機関ヒアリング結果

- 〔課題〕 施設の老朽化や機能不足、耐震性の不足/諸室等設備の不足(駐車場、洋式トイレ、楽屋、練習室など) 公共交通機関でもアクセスがしづらい/搬入出環境の不備
- 〔要望〕 日常的な活動・発表の場/展示等スペース/気軽に立ち寄れる交流の場/活動拠点機能/アーカイブ機能
- 〔期待〕 街の文化力向上、活性化/市民の主体性・自立性の向上/多様な文化や価値観を認める人が育つ

### エンターテインメント、MICE関係機関ヒアリング結果

- 〔エンターテインメント関係機関〕 福井市に市場性が無いわけではないが、興行に適した規模や設備等の要件が整った施設が少ない現状。
- 〔MICE関係機関〕 にぎわい創出の観点から、付加施設(展示機能や飲食機能)は、MICE利用も考慮し検討が必要。

### 施設の現況と市民意見・関係団体ヒアリングからみる福井市文化会館の位置づけ

- 市内の他の施設では補うことの出来ない多機能舞台を備えた施設
- 魅力的公演の開催に応えるべき施設
- 舞台芸術に必要な設備が整った施設
- 魅力的公演の開催に応えるべき施設
- 日常的練習、発表、交流に活用できる施設

## 3 福井市文化会館の必要性と将来像

### 文化創造拠点の必要性

文化芸術は、市民の創造性を育むことで多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成し、ふるさとに対する愛着と誇りを育てる。また、市民が豊かさを実感できるまちづくりのためには、身近に文化芸術に触れることができる文化創造拠点が必要である。

さらに、今後の北陸新幹線開業等を見据え、県都である福井市の魅力を高め、誰もが住み続けたい、住んでみたいと思えるふくいの創造に寄与することが求められている。

### 文化会館の役割

文化会館は現在も市民が優れた文化芸術を享受する場であるとともに、日頃の文化芸術活動やその成果を発揮する晴れの場、市内の他の施設では補うことができない機能を備えた施設として、文化振興に不可欠である。一方、社会経済情勢やライフスタイルの変化により、日常的な交流の場や文化芸術が持つ観光・産業など幅広い分野への波及効果を活かした地域活性化などが、新たな役割として求められている。

### 福井市文化会館の将来像

- 多くの人々が質の高い文化芸術を享受します。
- 多くの人々が、文化芸術を介して時間と場所を共有し、様々な交流を生みだします。
- 多くの人々が郷土の文化芸術や伝統文化に接することで、豊かな創造性や感受性を育み、ふるさとへの誇りを醸成します。
- 多くの人々がさまざまな形で文化芸術を体験し、より高いレベルを目指して練習し、発表、発信します。
- 文化芸術が持つ幅広い分野への波及効果が活かされ、地域コミュニティの活性化と地域の発展を支えます。

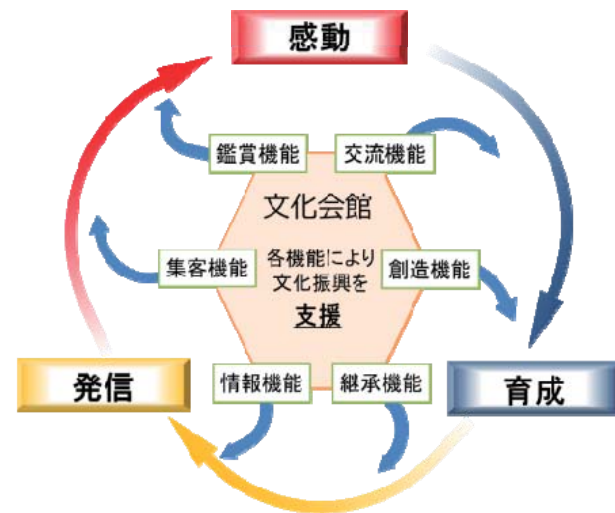
## 4 基本理念

### 基本理念

### 感動・育成・発信

### 目指す方向性

- ①鑑賞の場をつくる(鑑賞機能)  
文化芸術に親しみ楽しむ機会を提供し、良質な鑑賞環境を整備する。
- ②交流と活動の場をつくる(交流機能)  
仲間がいつも集まる場を目指し、社会的包摂の機能を備える。
- ③創造支援・人材育成の場をつくる(創造機能)  
文化芸術の創造と発展を支え、劇場・ホールを支える人材を養成する。
- ④地域文化の継承と活用(継承機能)  
地域文化の価値を再発見し、持続的な発展を目指す。
- ⑤文化情報の収集と発信(情報機能)  
幅広い文化芸術の情報を発信し、情報拠点をを目指す。
- ⑥人が集まる場をつくる(集客機能)  
気軽に文化芸術に触れることのできる誰でも立ち寄りやすい施設とする。



## 5 今後の整備方針

### 再整備の方向性

- 「改修」の場合、初期費用は抑えられるが施設の耐用年数の大きな伸びは期待できず、不足機能の大きな拡充を見込めない。
- 理念・方向性に掲げている文化芸術の創造、発信や交流を行うためには施設機能の拡充が必要である。
- ⇒「建替」による再整備を基本とし検討を進める。

### 施設機能について

- ①ホール 舞台芸術に重点を置き、音楽での利用性能を向上させる技術を取り入れたホール。
- ②練習室・会議室 リハーサルや発表、展示企画の場など多目的に使用できる諸室の整備。
- ③展示スペース 絵画、書道などの発表スペース等、気軽に文化芸術に触れることができる機能。
- ④交流スペース 来館者が情報交換できるようなスペース(たまり場)を検討。
- ⑤公共交通と駐車場 公共交通のアクセスを重視。一定数の駐車場設置を検討。
- ⑥その他 利用者の使い易さ、運営のしやすさを重視。バリアフリーへの対応。